

# 長崎県感染症発生動向調査速報

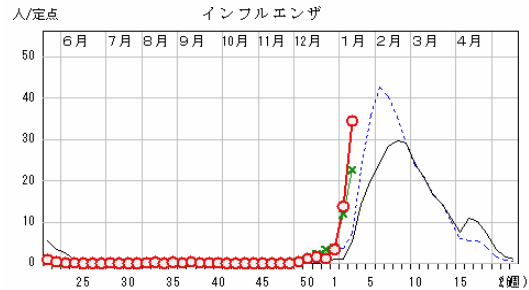
平成25年第3週 平成25年1月14日（月）～平成25年1月20日（日）

## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

### (1) インフルエンザ

第03週の報告数は2415人で、前週より1453人多く、定点当たりの報告数は34.5であった。年齢別では、10～14歳（506人）、30～39歳（199人）、15～19歳（191人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、県南保健所（64.38）、壱岐保健所（61.67）、長崎市保健所（37.71）が多かった。

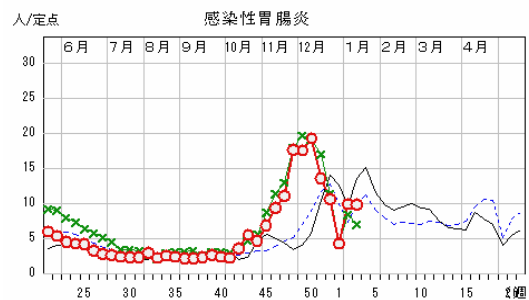


### (2) 感染性胃腸炎

第03週の報告数は431人で、前週より5人少なく、定点当たりの報告数は9.80であった。

年齢別では、10～14歳（63人）、1歳（60人）、20歳以上（50人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、西彼保健所（14.75）、県北保健所（14.33）、県南保健所（12.00）が多かった。

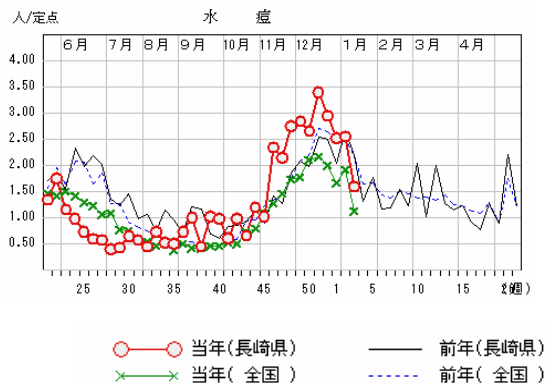


### (3) 水痘

第03週の報告数は70人で、前週より42人少なく、定点当たりの報告数は1.59であった。

年齢別では、1歳（19人）、～11ヶ月（12人）、3歳（10人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、県北保健所（3.67）、県南保健所（3.20）、対馬保健所（2.50）が多かった。



## ☆季節情報

### 【インフルエンザ】

長崎県における第3週の報告数は前週の962人から2415人に急増しました。定点当たりの人数も、インフルエンザの警報レベル「30」を超える34.50に達しています。このような状況から長崎県では1月24日に”インフルエンザ流行警報”が発令されました。報告は県下全域からあがっています。上五島地区（4.33）のみ注意報レベル「10」に達していないものの、その他の地域ではいずれも高値を示しています。特に県南地区で64.38、壱岐地区で61.67と警報レベルをはるかに超える報告数となっている地域もあります。例年、地方におけるインフルエンザの流行は年末年始の帰省客によって都市部より持込まれたウイルスに端を発して、本格的な流行が始まり、1月下旬～2月上旬に流行のピークを迎えますが、今シーズンも同様の立ち上がりの推移を示しているようです。年齢別にみると、小・中・高の学生が全体の1/3を占めており、学校等での流行がみられていますので、今後の動向に注視し、感染予防に心掛けましょう。

インフルエンザには抗インフルエンザ薬がありますが、予防にはワクチン接種が有効な手段の一つです。今週は幾分温かいようですがまだまだ寒い日が続きます。小さいお子さんや高齢者はもとより、受験生の方も体調管理に十分気をつけましょう。また、外出からの帰宅時にはうがい、手洗いの励行、マスクなどによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。

### 【感染性胃腸炎】

長崎県における感染性胃腸炎の報告数は431人で前週より5人減少し、ほぼ横ばいに推移しています。定点当たりの人数（9.80）は、全国定点当たりの人数（7.04）を上回っています。壱岐地区以外を除く県下全域から報告があり、西彼地区（14.75）、県北地区（14.33）、県南地区（12.00）は、終息基準値「12」以上のレベルでした。例年冬場は報告数が増加傾向にありますので、今後の動向に注視していく必要があります。

例年10月から11月にかけて流行の立ち上がりが見られ、12月中旬頃がピークとなる傾向にあることから11月13日には、厚生労働省より、「感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの予防啓発について」の通知が出されたところですが、本疾患による患者数の全国的な増加が、同時期では過去10年で平成18年に次ぐ高い水準であることから、11月27日に同省から「感染性胃腸炎の流行状況を踏まえたノロウイルスの一層の予防啓発について」の通知が出されました。全国的にも減少傾向にあるようですが、まだまだ十分な注意が必要です。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くは1～2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

原因微生物のうち、ロタウイルスについては2011年7月にワクチンが製造承認され、2012年7月には国内2製品目が発売されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に、小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【水痘】

長崎県における第3週の報告数は、前週より42人減少して70人でしたが、定点当たりの人数（1.59）は、全国定点当たりの人数（1.12）を上回っています。壱岐地区を除く県下全域から報告がありました。注意報レベルの「4」を超える地区はありませんでした。

この疾病は、例年、冬場に患者数が増加する傾向にありますので、今後の動向に注視していく必要があります。水痘は水疱瘡（みずぼうそう）とも呼ばれ、原因となる水痘帯状疱疹ウイルスは伝播力が強く、ウイルスを含む飛沫あるいは飛沫核を経気道的に吸入することによる飛沫感染あるいは水泡の内容液と触れることによる接触感染により感染が成立します。手洗いの励行、体調管理に心がけ感染防止に努めましょう。

☆トピックス：インフルエンザによる学級・学年・学校閉鎖が増えています。

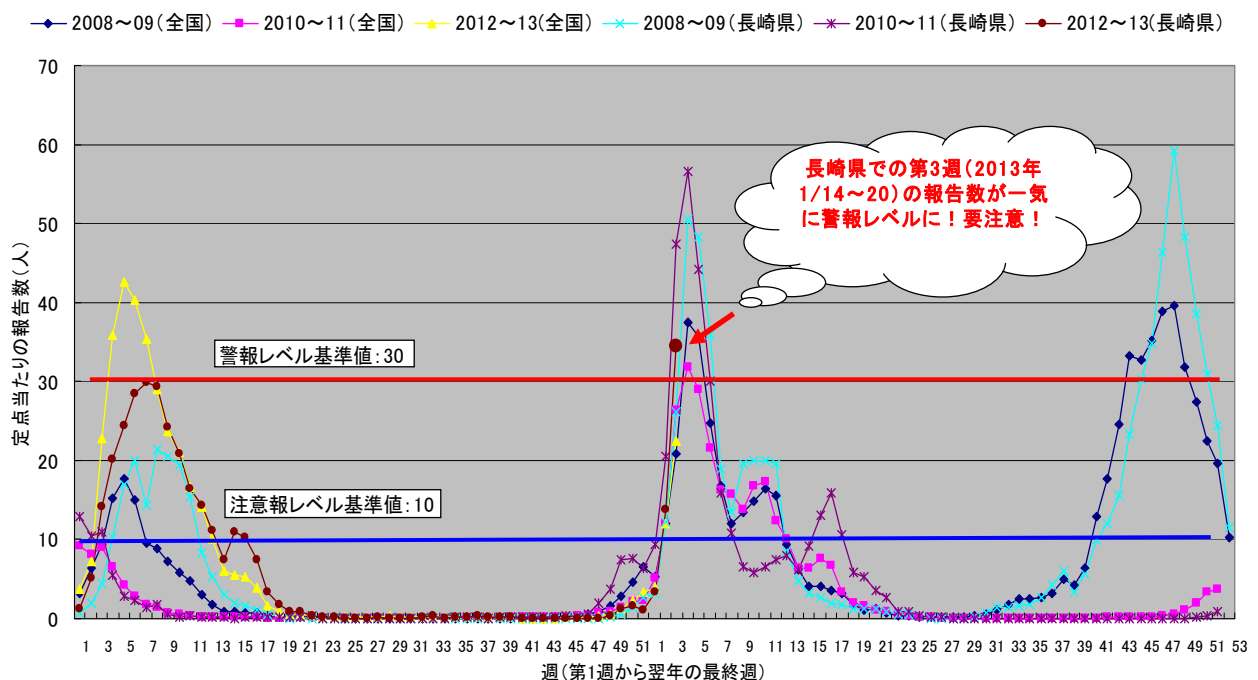
今期、長崎県では24年12月4日にシーズン初の臨時休業措置がとられましたが、今年1月23日までに、休校6件、学年閉鎖34件、学級閉鎖57件の措置がとられ、本格的な流行シーズンに入りました。

本県の第3週の定点当たりの報告数は警報レベルを超え（34.50）、報告も県下全域からあがっていることから今後の感染拡大が懸念されます。

また、1月に当研究センターにインフルエンザと診断され、搬入された患者の検体について検査を実施したところ、全例A/H3、いわゆるA香港型インフルエンザウイルスの遺伝子が検出されています。

年齢別でみると、10～20歳代が多く、次いで30歳代での報告が多くあがっています。

平成24年4月1日から学校保健法施行規則が一部改正され、「出席停止の指示」について改正前は、「解熱した後二日を経過するまで」でしたが、改正後は「発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日（幼児においては3日）を経過するまで」となっています。インフルエンザに感染し発症した園児や学童、生徒さんには十分な休養をとらせるよう保護者が心がけることにより新たな感染の拡大防止につながります。ワクチン接種による予防はもとより、手洗いの励行、外出先から帰宅した際のうがい、人ごみに入る際はマスクの着用などで、よりいっそうの注意が必要です。積極的な感染防止に努めましょう。



インフルエンザの定点当たりの報告数の推移(2008年～2013年第3週まで)

インフルエンザ・長崎県(2013年第3週)

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
佐世保市	30.73	○	11.2	△	1.64	-	0.73	-	0.73	-	-	-
長崎市	37.71	○	14.7	△	2.65	-	0.94	-	1.82	-	0.71	-
壱岐	61.67	○	18.3	△	7.67	-	0.33	-	-	-	-	-
西彼	30.5	○	11.2	△	1.5	-	0.83	-	-	-	-	-
県央	27.9	○	17.7	△	1.9	-	0.2	-	0.3	-	0.2	-
県南	64.38	○	21.9	△	9.13	-	1.63	-	0.13	-	-	-
県北	30.25	○	14	△	5.5	-	8	-	17.5	△	17.5	△
五島	17.6	△	6.4	-	2.4	-	0.2	-	-	-	-	-
上五島	4.33	-	3.67	-	3	-	0.33	-	-	-	-	-
対馬	17.33	△	5.33	-	3	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	34.5	○	13.7	△	3.41	-	1.13	-	1.61	-	1.2	-

○: 警報レベル  
 △: 注意報レベル  
 -: 警報・注意報なし

警報・注意報レベルの基準値(定ポイントあたり報告数)

警報レベル		注意報レベル
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10

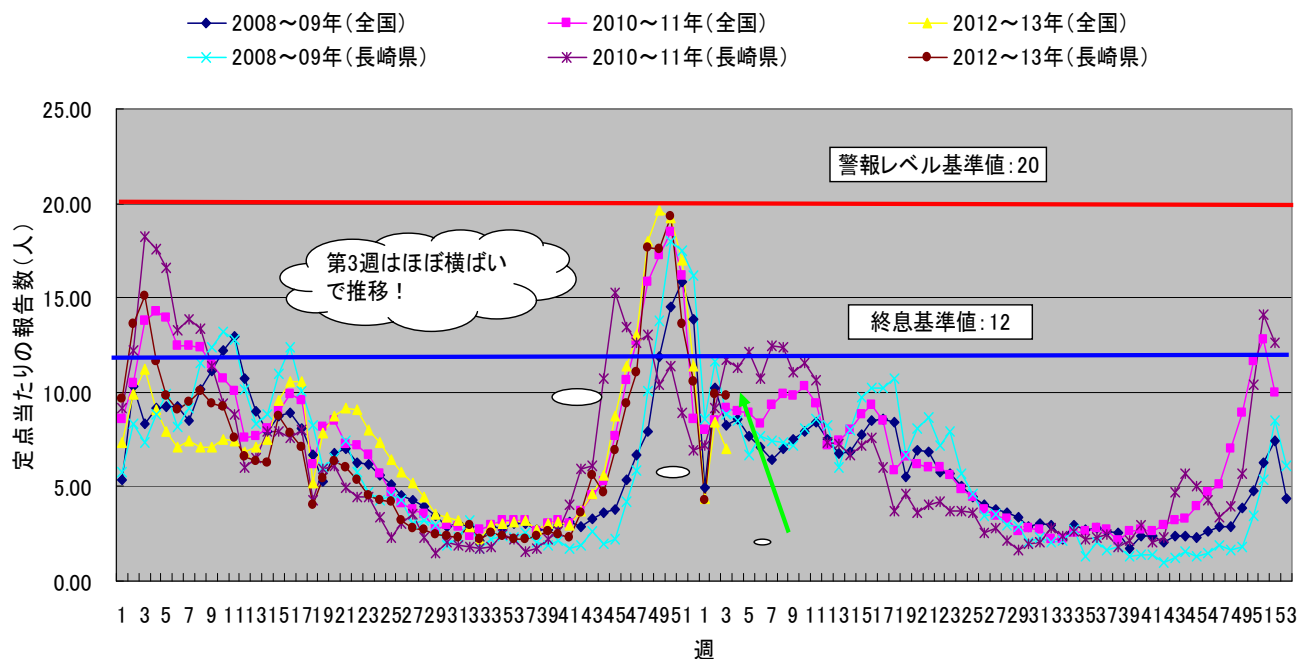
☆トピックス: **感染性胃腸炎(ノロウイルス)に気をつけましょう。**

昨年から、特にノロウイルスによる感染性胃腸炎の流行が懸念されており、各地で本ウイルスによる大規模な食中毒や福祉施設等での感染症関連のニュースが取り上げられています。

本県においては、感染性胃腸炎の報告数がほぼ横ばいで推移していますので引き続き感染防止対策に努めましょう。2009年の新型インフルエンザ流行の際、手洗いの積極的な励行やマスクの着用等の公衆衛生意識の向上に伴って、感染性胃腸炎の流行も極端に抑制されたことから、手洗いの励行は、簡便かつ有効な手段であると考えられます。

ノロウイルスの潜伏期間は1~2日で症状の持続期間は数時間~数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。万が一発症した場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。

(参考:厚労省HP <http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/03.html#link01> )



感染性胃腸炎における2008年から13年第3週までの推移

